

「三重県 心のノート」活用事例

校種	小学校	学年	6年	内容項目	2－(5)
主題名	尊敬し感謝の心を持つ				
資料名	多くの人々に支えられ、私たちの今がある 木曾三川と治水 「三重県 心のノート 小学校5・6年」(三重県教育委員会)				
ねらい	宝暦治水における薩摩藩士の業績について知り、中心となって工事を進めた平田靱負の「同じ日本に住む、困っている人を救おう」という言葉について考える。				
展開	学習活動と主な発問			指導上の要点	
	<p>1 宝暦治水について知る。</p> <p>2 平田靱負の「同じ日本に住む、困っている人を救おう」という言葉について、自分の考えを発表する。</p> <p>3 授業の感想をワークシートに書く。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・補足説明をしながら読み聞かせをする。 ・写真やイラストはプロジェクターで提示する。 ・全員に考えを発表させる。 ・三重県人の立場からも考えさせる。 ・為政者の立場からでなく、下級武士や庶民の立場からの発言を促す。 	
他の教育活動との関連	・社会科の江戸幕府の大名支配と関連させながら、為政者の立場ではなく、下級武士や庶民の立場で考えさせる。				
成果と課題	<p>下級庶民の立場に立って考えさせたかったが、十分には出されることができなかった。しかし、授業後の感想から自分の生き方に返して考えることができたことは、よかった。</p> <p><授業後の児童の感想></p> <p>A ゆきえさんの言葉はとてもうれしくてありがたいなあ、困っていたら次はこっちが助けていきたいなあという気持ちになった。このような言葉をいつってくれる人がいるんだなあ。こういう人が一番えらい人になるととてもいいなあと思いました。同じ日本人にこういう人がいてとてもうれしいなあと感じました。</p> <p>B 平田靱負さんは困っている人を助けるために、遠いところからやってきてくれたのは、すごくうれしいと思いました。ぼくたちも大人になったら外国でもどこでも困っている人を救いたい。</p> <p>C 平田ゆきえはすごく広い心をもって自分は得しないのに困っている人のためにわざわざお金を使って直してくれたのは、後の時代になってもすごくうれしいことだと思います。命がけでやった工事が完成できてよかったと思います。僕も平田ゆきえのように困っている人がいたら助けてあげたいなと思いました。</p>				

<授業後の板書>

